

2025年6月 マーケット概況

資産クラス	指数	3月	4月	5月	6月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	35617.56	36045.38	37965.10	40487.39	6.64%	1.49%
	グロース250	651.41	676.85	745.24	748.25	0.40%	16.16%
海外株式	NYダウ平均	42001.76	40669.36	42270.07	44094.77	4.32%	3.64%
	S&P500	5611.85	5569.06	5911.69	6204.95	4.96%	5.50%
	NASDAQ総合	17299.29	17446.34	19113.76	20369.77	6.57%	5.48%
	MSCI EUROPE	2200.34	2284.16	2370.53	2416.91	1.96%	20.67%
新興国株式	上海総合指数	3335.746	3279.031	3347.490	3444.425	2.90%	2.76%
	SENSEX	77414.92	80242.24	81451.01	83606.46	2.65%	7.00%
海外金利	米政策金利（FF金利）	4.50	4.50	4.50	4.50	-	-
	米国債10年	4.2450	4.1750	4.4180	4.2260	-	-
国内金利	政策金利（無担保コール）	0.476	0.476	0.476	0.477	-	-
	10年物国債	1.4890	1.3130	1.5090	1.4310	-	-
外国為替（対円）	米ドル	149.95	143.07	144.04	144.01	-0.02%	-8.38%
	ユーロ	162.20	162.06	163.44	169.73	3.85%	4.30%
コモディティ	WTI（原油先物）	71.48	58.21	60.79	65.10	7.09%	-9.23%
	NY金（先物）	3105.3	3319.1	3315.4	3307.7	-0.23%	25.24%
不動産	東証REIT	1691.63	1712.43	1736.74	1778.87	2.43%	7.62%
ヘッジファンド	HFRX指数	1492.38	1485.99	1503.43	1519.96	1.10%	2.39%

データ出所：Refinitiv

【 6月の金融市場 】

6月の日本株式市場は、第3週あたりまでは方向感の乏しい展開が続きましたが、月末にかけて半導体関連株を中心に急伸する動きとなりました。米国AI関連銘柄の好業績や中東での地政学リスクが沈静化したことが背景です。日経平均は月末に1月以来約5カ月ぶりとなる40000円台を回復しました。月間のパフォーマンスは、半導体関連銘柄が寄与して+6.6%と大幅上昇となりました。TOPIXは+1.8%と上昇したものの日経平均をアンダーパフォームし、NT倍率は3カ月連続で上昇しました。東証グロース250指数は+0.4%とちょうど上昇しましたが前月までの勢いは止まりました。

米国株式市場は、AI関連の半導体やソフトウェア銘柄の好業績と地政学リスクの軽減を背景に、大型テクノロジー株がけん引する形で堅調な動きとなりました。NYダウの月間騰落率は+4.3%で3カ月連続高となりました。ナスダックはテック銘柄の好決算から+6.6%と先月に続きNYダウを上回る大幅高となり、最高値を更新しています。

米国10年債金利は、月初に一時4.5%水準まで上昇しましたが、その後は月間を通じて低下基調となりました。想定より弱い景気指標が相次ぎ、FRBの理事から早期利下げを示唆する発言があったことなどが背景です。

ドル円相場は、中東情勢が緊迫化したことから一時的に146円台をつけドル高円安の動きが見られましたが、その後は米国の財政赤字拡大懸念や弱い経済指標を背景に再び円が買われ、月間ではほぼ横ばいとなりました。

大阪金先物は、地政学リスクの高まりで月初から強い相場が続きました。ただ、月末にかけてはイスラエルとイランが停戦に合意したとの報道を受け急反落する動きとなっています。

【 今後の見通し 】

トランプ大統領就任から半年が経過しました。この間、発信された言動の激しさや不透明感とは裏腹に、グローバル経済はリセッションもなく意外なほど安定的に推移してきました。金融市場では、相互関税導入発表時に一時的な混乱がありましたが、短期間で回復しました。喧伝された世界経済の混乱や衰退は現在のところ杞憂に終わっています。米国テック企業の業績は好調を持続し、株価上昇の牽引役となっています。堅調な株価は今後資産効果を通じて個人消費など景気動向にプラスに働きますので、米国経済に好循環が生じる可能性もあります。リスクオンの相場環境が年後半も続くともるのがメインシナリオでしょう。

1990年以降米国株（S&P500）が本格的調整局面入りを示唆する10%以上下落した事例は、今回の4月を含め11回ありました。確かに大半のケースで半年以上の長期調整を余儀なくされましたが、過去、今回のように短期で20%前後急落してV字回復となったことが2回ありました。1998年のLTCMショックと2020年のコロナショックの急落です。特に今回の直近高値からの下げ模様とその後3カ月間の反発の形状は、LTCMショック時に非常によく似ています。当時は、国際金融の根幹を揺るがす事案が金融緩和を促し、その後のITバブルにつながる2年に及ぶ株価上昇を招きました。「遅すぎる」とのトランプ大統領の緩和圧力はともかく、今後景況感悪化やインフレ鎮静化を受けて利下げカードが切られた場合には株価へのプラス影響は大きいのではないのでしょうか。

関税の不透明感が残る中、日経平均は予想外の早さで4万円を回復しました。外国人投資家の買い越しと寄与率の大きい半導体関連株の大幅上昇が背景です。NT倍率は4月のボトム13倍台前半から6月末には14.2倍台まで1ポイント以上上昇し、2月急落前の水準、昨年の平均値近くまで戻しました。極端な動きとなりましたので、半導体株と日経平均に傾斜した上昇は一旦勢いが止まるとみています。6月の日銀短観の大企業製造業業況判断指数では、自動車・金属製品など4業種で悪化しましたが、全体では小幅上昇で意外と底堅さを示しました。ドル円相場は企業の想定レート近辺で安定しており、設備投資計画も旺盛です。今のところ期初予想に対する業績悪化懸念は強まっていません。関税交渉次第とは言え、今後はリスクオンの場面では景気敏感株などのバリュー株にも物色が広がると考えます。

期待が先行せず抑制的な株価形成が続く日本株ですが、リスクオンで買われ過ぎないため反動としての大幅調整も起こりにくい状況です。構造的要因でもあり、昨年8月と今年4月の急落とその後のV字型急反発が似たような形状になったのは偶然ではないでしょう。戦略としては、大きなキャピタルゲイン狙いではなく、高配当のインカムゲインと有価証券オプションなどで $+\alpha$ を目指すのが有効と考えます。日々の値動きの印象に較べ実際のリスクは限定的と言えるでしょう。7-8月の日経平均予想レンジは38000~41000円です。

【 6月のかぶオブ（個別株オプション） 】

大阪取引所における取引ランキング（出典：大阪取引所）

かぶオブ取引金額ランキング

2025年6月				[想定元本ベース,円]	
コード	対象株券	MM対象	ランク	取引金額	
1321	NEXT FUNDS 日経225連動型上場投信	○	★ 1	4,145,881,000	
7270	S U B A R U	-	★ 2	3,839,940,000	
9532	大阪瓦斯	-	★ 3	3,755,880,000	
9984	ソフトバンクグループ	○	★ 4	3,530,575,000	
8035	東京エレクトロン	○	★ 5	1,440,700,000	
9101	日本郵船	○	★ 6	1,276,145,000	
9107	川崎汽船	-	★ 7	1,100,000,000	
6920	レーザーテック	○	☆ 8	1,098,350,000	
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	○	☆ 9	972,645,000	
9983	ファーストリテイリング	○	☆ 10	912,050,000	
7203	トヨタ自動車	○	☆ 11	746,790,000	
7974	任天堂	○	☆ 12	624,400,000	
5401	日本製鉄	○	☆ 13	619,010,000	
8058	三菱商事	○	☆ 14	508,290,000	
8031	三井物産	-	☆ 15	451,880,000	
1306	NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信	○	☆ 16	304,540,000	
6594	ニデック	-	☆ 17	155,140,000	
8309	三井住友トラストグループ	-	☆ 18	38,000,000	
6752	パナソニック ホールディングス	-	☆ 19	10,220,000	
8316	三井住友フィナンシャルグループ	-	☆ 20	5,400,000	
9502	中部電力	-	☆ 21	3,200,000	
6758	ソニーグループ	-	☆ 22	2,660,000	
8001	伊藤忠商事	-	☆ 23	1,400,000	
4063	信越化学工業	-	☆ 24	920,000	
7011	三菱重工業	-	☆ 25	740,000	
5108	ブリヂストン	-	☆ 26	550,000	
8630	S O M P Oホールディングス	-	☆ 27	460,000	
8002	丸紅	-	☆ 28	320,000	
8953	日本都市ファンド投資法人	-	☆ 29	175,000	
4755	楽天グループ	-	☆ 30	170,000	
6326	クボタ	-	☆ 31	150,000	
1540	純金上場信託（現物国内保管型）	-	☆ 32	72,500	
9432	日本電信電話	-	☆ 33	15,000	

※表中の「MM対象」はマーケット・メイク銘柄

光世証券で取引された主な銘柄

1321	日経225ETF
1540	純金上場信託
1671	WTI原油価格連動投信
9984	ソフトバンク・グループ
8306	三菱UFJ
7203	トヨタ
8058	三菱商事

5401	日本製鉄
6920	レーザーテック
9101	日本郵船
1306	TOPIX連動ETF
8035	東京エレクト
6758	ソニー

6月半ば以降、株式相場は持ち合いを上を離れる動きを示しました。

日経平均の構成銘柄のソフトバンク・グループや東京エレクトロン、レーザーテックなどの値高株の動きが著しく、7月限コール・オプションが大きく上昇しました。

<例>

9984ソフトバンク・グループ

7月限行使価格9,250円コール・オプション

日付	株価	オプション価格
6月10日	7,909円	65円50銭
6月30日	10,515円	1,275円

<今後の参考戦略>

上昇した銘柄の8月限のコール・プット両方を買う、ロング・ストラングルまたはロング・ストラドル

ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）

		2025年						年初来
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	
ヘッジファンド・インデックス		1.00%	0.28%	-0.75%	-0.43%	1.17%	1.10%	2.39%
	株式ロング・ショート	2.11%	-0.53%	-1.33%	0.00%	2.63%	1.43%	4.32%
	イベント・ドリブン	0.66%	0.46%	-0.12%	0.00%	1.09%	0.71%	2.82%
	レラティブ・バリュー	0.87%	0.75%	-0.45%	0.18%	0.61%	1.07%	3.05%
	マクロ	-0.20%	0.70%	-1.33%	-3.01%	-0.44%	1.25%	-3.05%
	C T A	-0.27%	-0.50%	-1.17%	-4.49%	-1.39%	1.04%	-6.68%

データ出所：ヘッジファンド・リサーチ社

いま注目の「金」市場を解説—史上最高値更新の今投資の好機か？

一言に「金」といっても、その投資手段は多岐にわたり、商品ごとに特徴も異なります。すでに金をご保有の方も、今一度ご自身の資産に適した形での組み入れ方をご確認いただく機会として、ぜひご一読ください。

■ 歴史で見る金価格の急騰局面←



1970年から2025年現在までの金スポット価格（ドル建て）←

過去急騰した局面では、「不安感」「通貨下落」「金融緩和」といったテーマが共通して見られ、金が「安全資産」として選好された背景があります。

■ 世界が注目する「金」——3,300ドル台の攻防

2025年4月、ニューヨーク金先物価格は一時1トロイオンス＝3,500ドルを突破し、過去最高値を更新。インフレや地政学的リスクへのヘッジとしての関心が高まり、HSBCやJ.P.モルガンといった世界有数の金融機関も強気の見通しを示しました。

その後はやや落ち着きを見せるものの、現在は3,300ドル台前半で堅調に推移しており、「今後再び上昇するのでは」という期待が根強くあります。

■ 国内でも過去最高の金価格——店頭小売価格は1g＝17,678円

国内でも金への注目は高まっており、2025年6月には田中貴金属の小売価格が1gあたり17,678円と史上最高値を記録。

実際に金地金やコインへの投資を始める個人も増え、金価格の高止まりが続いています。

■ 金の「分散効果」と「価値保存」の魅力

金は配当や利息を生まない資産ですが、その代わりに通貨下落・インフレ・世界的な不安定局面に強いという特徴があります。

株式や債券と異なる値動きをするため、「分散投資」の視点でも注目される存在です。

■ 当社取り扱いの金関連銘柄紹介

光世証券では、以下のような金に関連する銘柄・商品を取り扱っております。

銘柄コード	商品名	特徴	運用会社
1326	SPDR ゴールド・シェア	世界最大級の金連動ETF。ドル建てで金価格に連動	ステート・ストリート（SSGA）
1328	NF 金価格連動投信	国内円建て金価格の指数と連動	野村アセットマネジメント
1540	純金上場投資信託	信託財産として現物の金地金を保有	三菱UFJ信託銀行
1672	金ETF	ロンドン金市場の価格に基づき、1口あたり約0.1オンスの金地金に連動	ウィズダムツリー（W・T）

■ いまが“入り口”のタイミングか？

「高値圏だから手を出しにくい」と思われがちな金投資ですが、各機関のレポートをみると、中期的には3,600ドルまでの上昇余地も視野に入っています。

また、物理的な金だけでなく、ETFなどであれば少額からの投資も可能です。

「いつか買おう」と思っていたら、気がつけばこれほどまでに価格が上昇していました。今こそ、ご自身のポートフォリオに金を組み込むことを検討されてはいかがでしょうか。
光世証券では、お一人お一人様に個別相談ができるプライベートセミナーも随時開催しております。何かお困りの事などがありましたら、是非ご利用いただければ幸いです。

日経平均



NYダウ



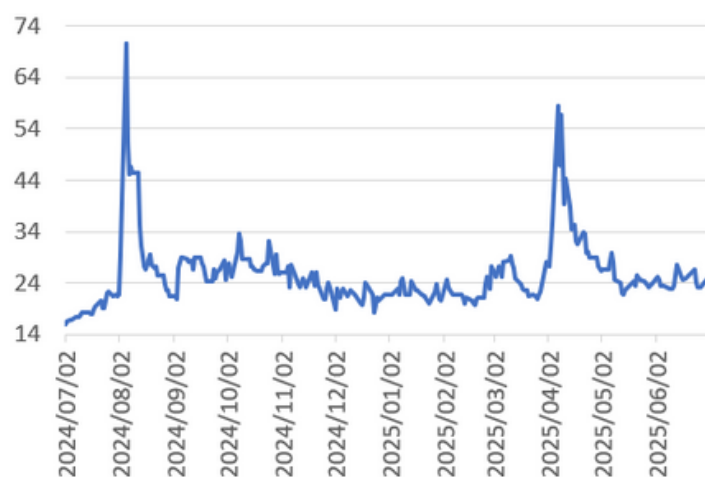
米国10年債利回り 日本10年債利回り



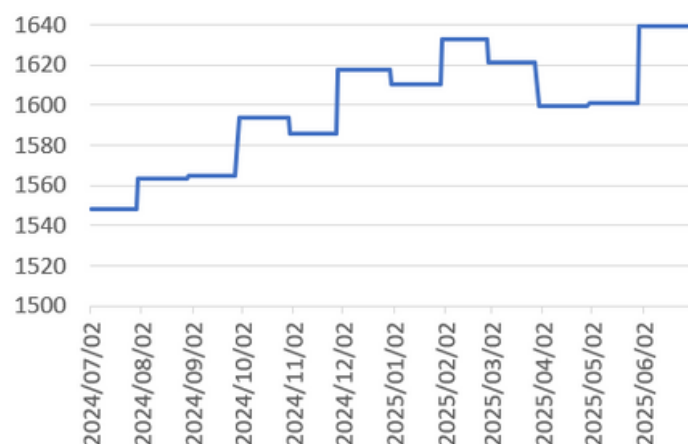
ドル円 ユーロ円



日経VI指数



Bloomberg全ヘッジファンド指数



<執筆者>

株式・債券・為替

… 西川 雅博

かぶオプ（個別株オプション）
ヘッジファンド運用成績

… 樋爪 功次

そうだったのか！「知って納得、証券投資」Vol. 192
史上最高値更新の今、投資の好機か？

… 石田 航輝

<編集責任者>

樋爪 功次

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。
本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本 店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

